

第2学年国語科学習指導案

令和3年11月11日(木)

2学年1組 35名

授業者 松崎 えりか

わくわく・どきどき・チャレンジ蔵前

目指す児童像

自分の考えを伝え合い、楽しみながら学ぶ子

1 単元名 役になりきって音読げきをしよう(12時間)

教材名 「お手紙」(光村図書 2年下)

2 単元の目標

知識及び技能	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるようにする。 (1)ク
思考力、判断力、表現力等	・場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像することができるようにする。 C(1)エ ・文章を読んで想像したことや分かったことを共有することができるようにする。 C(1)カ
学びに向かう力、人間性等	・物語を楽しみながら読み、進んで音読劇に取り組もうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	・語のまとまりや抑揚、声の大きさなどに気を付けて音読している。
思考・判断・表現	・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像している。 ・「読むこと」において、文章を読んで想像したことや分かったことを共有している。
主体的に学習に取り組む態度	・物語を楽しみながら読み、学習の見通しをもって、進んで音読劇に取り組もうとしている。

4 児童の実態

略

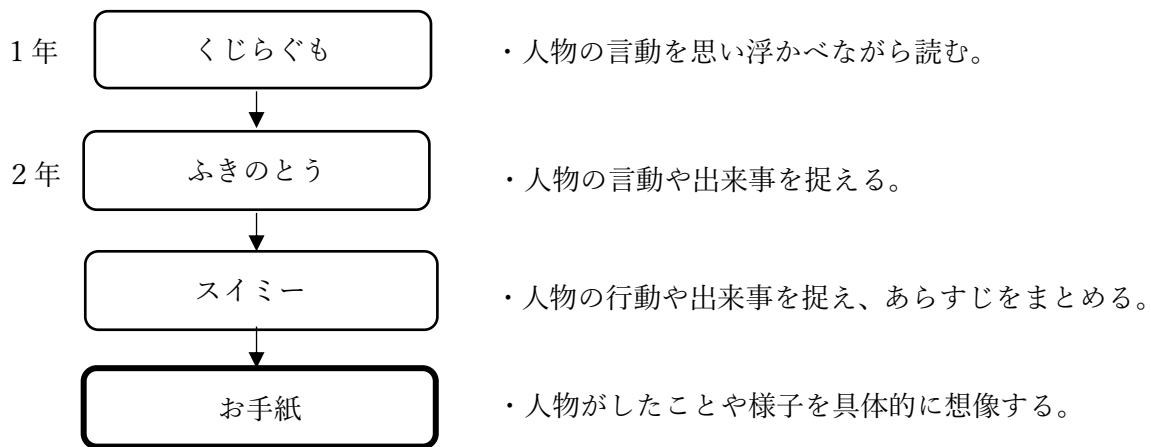
略

5 単元について

本単元は、文学的文章の「お手紙」を教材とし、「音読劇をする」という言語活動を行う。音読劇を通して「内容を捉えさせ、登場人物の行動を具体的に想像すること」をねらいとしている。挿絵や叙述から分かることや想像したことを音読の際に、表情や口調、簡単な動きを加えて表現することによって、物語の読み取りを深めることにつなげていきたい。

本教材は、登場人物が少なく、物語の大部分が会話文で構成されている。また、様子や動作が分かりやすく表されているので、2年生の児童にとっては、登場人物に同化しやすく音読劇に適した教材といえる。二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりから、二人の行動や心情の変化を読み取り、想像を広げたことを音読劇に生かしていく。その際、叙述には表れていない二人の心情や動作も考えることで児童は積極的に想像を広げながら物語を読み進め、音読劇に生かすことができると考える。

【単元の位置付け】



6 研究主題に迫るための手立て

(1) 本単元において「学びに向かう力」が見られる児童の姿

- (★1) 音読劇に興味をもち、進んで学習に取り組もうとしている姿。
- (★2) 友達と交流することで自分の考えを広げ、音読に取り入れようとしている姿。
- (★3) 想像したことを表情や口調、動作で表しながら役になりきって音読をしている姿。

(2) 「学びに向かう力」を向上させるための工夫

手立て① 教材と出会い、学びのイメージを拡げる工夫

- ・教師によるがまくんとかえるくんが登場する他作品の音読劇の映像を視聴することで、音読劇に興味を抱かせ、進んで学習に取り組めるようにする。
- ・がまくんとかえるくんが登場する他作品を読み聞かせすることにより、二人の性格や関係性を捉えやすくする。また、アーノルド＝ローベルの世界観に親しませる。

- ・3年生に音読劇を発表するという単元のゴールを示すことで、登場人物になりきって音読するために必要な学習方法を児童とともに考え、目的をもって学習を進められるようにする。
(「理解の問い」)

手立て② 友達と関わり合って学び合う環境の工夫

- ・自分が考えた音読の工夫をワークシートに記述することにより、トリオでの交流で自分の考えを積極的に伝えられるようにする。
- ・トリオや全体交流で見合った、友達が考えた音読の工夫を自分もやってみることで、友達の考えのよさに気づき、自分の音読に生かすことができるようにする。(「関連の問い」)
- ・トリオの二人が役割音読を行い、残りの一人が音読を客観的に見ることで、友達の音読のよさに気付けるようにする。

手立て③ 学びを自覚し、次の学習につなげる工夫

- ・一人1台端末を使い、児童の音読の様子を撮影することで、音読の工夫を考える前と後の音読の仕方の変容を確認させ、役割音読や音読劇への意欲付けとする。
- ・学習計画表を活用し、友達と役割音読や音読劇を見合い、考えを共有したことを振り返り、自らの学びの自覚や次時への意欲付けにつなげていく。
(「振り返りの問い」)

7 指導計画（本時は 7/12）

時	○主な活動内容	◎指導上の留意点 □評価 ・手立て (★)「学びに向かう力」が見られる姿
1	【構造と内容の把握】 ○これまでの音読経験を振り返る。 ○音読劇を視聴し、「お手紙劇場をする」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ○全文を読み、初発の感想を伝え合う。	◎がまくんとかえるくんが登場する本の読み聞かせを朝学習等の時間で行っていく。 ◎これまでの音読学習を想起させ、単元のめあてを設定し、相手意識・目的意識をはっきりさせる。 ◎教師による音読劇の映像を視聴することで、音読劇に興味を抱かせ、進んで学習に取り組めるようにする。 主 学習の見通しをもって音読劇に取り組もうとしている。 ・手立て①(★1)
2・3	【構造と内容の把握】 ○全文を読み、誰が言った言葉かを確認する。 ○場面や登場人物の行動を確かめ、大体的内容をつかみ、場面分けをする。	◎二人の会話にシールを貼り、区別させる。 ◎場所や登場人物の行動から場面を四つに分ける。登場人物をおさえ、がまくんとかえるくんがしたことを順に沿って整理できるようにする。 知 語のまとまりや抑揚、声の大きさなどに気を付けて音読している。

		思場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像している。 ・手立て①(★1)
4・5・6・7 (本時)・8	【精査・解釈】 ○場面ごとに、がまくんとかえるくんの行動や心情を具体的に想像し、音読の工夫を考える。 ○トリオで役割音読をして、音読の工夫を共有する。	◎挿絵を基に叙述に合わせて登場人物の行動を具体的に捉えさせる。 ◎ワークシートに自分が考えた読み方や動作の工夫を書くように促す。 ◎トリオで交流することで全員が主体的に参加できるようにする。 ◎よかったところを伝え合い、役割交代をして音読をさせる。 知語のまとまりや抑揚、声の大きさに気を付け、音読を工夫している。 思場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像している。 ・手立て②③(★1、2、3)
9・10・11	【考えの形成】【共有】 ○音読劇で読みたいところを決め、音読の工夫を考える。 ○トリオで音読劇の練習をする。 ○「お手紙劇場」を開き、感想を伝え合う。	◎これまでの学習を生かし、音読の工夫を考えながらトリオで全場面の音読劇に取り組ませる。 ◎3年生に発表することを意識させ、読み方や動作などを考えさせる。 ◎聞き手は、自分と同じ役割の友達の読み方を中心に聞くように促す。 ◎発表を聞き、よいところや取り入れたいところを伝え合わせる。 思文章を読んで想像したことや分かったことを伝え合っている。 主これまでの学習を生かし、進んで音読劇に取り組もうとしている。 ・手立て②③(★1、2、3)
12	【考えの形成】【共有】 ○3年生に「お手紙劇場」を発表する。 ○学習の振り返りをする。	◎学習したことを生かして音読劇ができるようにする。 主これまでの学習を生かし、想像したことを進んで音読劇に表そうとしている。 ・手立て③(★1、3)

8 本時の学習（7/12）

（1）目標

- ・語のまとまりや抑揚、声の大きさに気を付け、音読を工夫することができるようにする。
(知識及び技能)
- ・場面の様子に着目して、がまくんとかえるくんの行動や心情を具体的に想像することができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)

（2）展開

	学習活動	◎指導上の留意点 □評価 (★)「学びに向かう力」が見られる姿
導入	1 本時のめあてを知る。 がまくんとかえるくんの気持ちやようすを考えて、音読しよう。	
展開	2 第3場面を音読する。 3 がまくんの家での二人の様子について想像して、音読の工夫を考える。 4 学び合いをする。 ①トリオで役割音読をする。 ②全体で学び合いをする。 ③学び合いをしたことを基に、音読をする。 (「関連の問い」)	◎一人読みで自分のペースで音読させる。 ◎話のつながりを意識させるために、第3場面を通して音読させる。 ◎「かなしい気分」から「しあわせな気持ち」に変わる場面であることを押さえる。 ◎「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」の会話から、幸せな気持ちになるがまくんの心の変化に気付かせ、どのように音読すればよいかイメージをもてるようにする。 ◎14ページの「ああ。」との違いを考えさせ、音読の仕方で気持ちの表し方が変わることを押さえる。 ◎ワークシートにサイドラインを引き、読み方や動作の工夫が書けるようにする。 ◎よかったところを伝え合い、役割交代をして音読をさせる。 知語のまとまりや抑揚、声の大きさに気を付け、音読を工夫している。(観察) ◎動作を入れるなど工夫しているトリオを紹介する。 ◎友達の発表を見てよい点や取り入れたい点を見付け、自分の音読の工夫に取り入れてもよいことを伝える。 ◎全体での学び合いの後の音読は教師が地の文を読み、児童が二人の会話文を読む。 思場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像している。 (ワークシート・観察)

